

健康

自然に目閉じる「眼瞼けいれん」

紙上
診察室

前久保 知行さん



Q 昨夏から、車の運転中、自然に目が閉じてしまう症状があり、眼瞼けいれんと診断されました。完治には長時間かかるでしょうか？
(女性、49歳)

A 眼瞼けいれんは、自分の意思とは関係なくまぶたが動く病気で、まぶたの制御異常と考えられています。目を開けづらい、まぶしい、コロコロするなどの症状が出ます。運転中に目が開けられずに危険を感じたり、歩行時に電柱や歩行者とぶつかったりなど、生活に支障をきたすこともあります。

注射、眼鏡で症状改善

紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号(紙面では匿名)を書き、右下のあて先へ。

あすの紙面

アイスで手軽に栄養補給
ディップや白あえ風にも

現在のところ、根治的な治療方法は見つかっておらず、対症療法になります。効果が最も高いとされるのは、ボツリヌス注射治療です。ボツリヌス毒素を薬剤にしてまぶたの周りに打ち、「眼輪筋」という筋肉を緩めることで症状を改善させます。効果は数日から二週間で徐々に表れ、三〜四カ月間持続します。患者の約八割に効果があると報告されていますが、永続的ではありません。効力が弱まってきたら再投与を検討します。内服治療や、まぶしさを緩和させるために光の刺激を抑える遮光眼鏡を試すこともあります。また感覚トリックを用いた治療として、特殊なプラスチックをあしらったばねが付いたクラッチ眼鏡を掛け、まぶたを持ち上げるのも手段の一つです。顎や頬を触る、ガムをかむなどすることで目の周りの緊張が取れ、症状が改善する人もいます。症状の程度や希望に応じて治療法を選択するのが現状です。

抗不安薬や抗うつ薬といった薬の副作用によって症状が出ることもあります。その場合は、原因薬剤の変更や休薬によって改善できるかもしれません。

(眼科二宅病院医師)